令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500080		
法人名	有限会社 花水木		
事業所名	グループホーム ジョイナス		
所在地	福岡県宮若市本城720		
自己評価作成日	令和5年2月17日	評価結果確定日	令和5年3月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「日々発見」「日々感動」「共に生きる」を理念としております。何年たっても何歳になっても「何かを発見できる」毎日、何でもないようなことに「感動」する生活、ホームにいても誰かと社会とつながり「ともに生きている」。そんな日々を過ごしていただきたいと思っています。長引くコロナ騒ぎのためと利用者様の身体状態の重度化のためもあり、すっかり外出の機会は減ってしまいましたが、ご身内の方によるハーブのミニ演奏会や近場へのドライブなどで少しでも社会交流を持って頂くよう工夫しております。そんな中でやっぱり食事が何よりの楽しみ。精米したての宮若黒丸米はとても好評です。外を散歩できる方も少なくなりましたがその分、室内での体操を心掛け、楽しい風船バレーなどを取り入れ体力の維持に努めております。お風呂は拒否のない限り基本毎日入ってゆったりして頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者の誕生日当日に他の入居者がお祝いを述べる様子は、理念の「日々発見」、「共に喜び、感動」の場面となり、入居者のできなくなった事を半年間の記録ができるモニタリング表で把握しながら、日々まだできる事に感動し、共に喜んでいる。昨年6月、開所以来入居されていた方を居室に寝泊りした家族とともに看取り、入居者も夫々、手を握り足をさすって「ありがとう」と謝辞を述べるなど、家族の様に入居者に寄り添う先輩の姿を理想に掲げたチームケアの成果となっている。面会制限の中、来訪時や電話などで家族に入居者の近況等を詳細に報告して信頼関係の構築に努め、コロナ禍に配慮し近隣の会議室を借りて、昨年5月から定期的に開催している運営推進会議では、参加者から入居者の様子が分からないなどの率直な意見があり、開催場所を検討中である。新型コロナウイルスクラスター発生時の貴重な経験を活かし、今後も地域の理解や協力を得ながら、地域に密着したサービスの展開で、理念のさらなる具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名

グループホームジョイナス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の昨日出来なかった事が今日は何が出来たかを発見し共に喜びを感じられる支援を心掛けるよう努力をしている。	入り口の目に付きやすい壁に理念を掲示し、毎朝理念の唱和を継続している。入居者の誕生日当日、他の入居者がお祝いを述べる様子は、理念の「日々発見」、「共に喜び、感動」が具現化した場面となり、行事記録に整備している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で中々地域の方々との交流が出来ていない。しかし昨年末利用者様ご家族の提案によりハーブ演奏会をクリスマスイブに行うことが出来た。	コロナ禍で行事が中止された中、去年は神輿が訪れ、玄関で見物している。地域行事等の情報を回覧板で確認し、職員が年2回の一斉清掃や空き缶拾いに参加し、地域の方たちと挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は特に行うことが出来なかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・民生委員・地域の有識者・交番署員・消防署員・市役所の方々に参加をお願いしている。消防署員・交番署員は毎回の参加があった。交番署員からは防犯に関するチラシの配布などがあり、意見交換もできた。	運営推進会議は、コロナ禍に配慮し近隣の会議室を借りて家族代表や地域代表などの参加で、昨年5月から定期的に開催している。参加者から入居者の様子がわからないなどの率直な意見があり、開催場所を検討中である。会議録は事務所のカウンターで公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加を頂き、事業所の状況やサービスの取組みを伝えるようにしている。書類関係や研修に関しても協力体制をとり連携を深めている。	毎月市担当課と居室の空き情報を交換し、新型コロナウイルスクラスター発生は関係部署に報告している。保健所から派遣された看護師の感染管理の指導は大変役立ったと、管理者は話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、事業所の取組みを報告したり、身体拘束に関する資料を配布し共に学んで頂いている。2カ月に1回行っている。職員内部研修は月に1度の勉強会に取り入れて年2回を目標に行っている。8月の勉強会で取り入れた。	定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、毎月の勉強会で言葉による拘束について周知し、眠りスキャンの活用で拘束のない支援に努めている。無断で外に出られる方はいないが、トイレの場所が分からない方には家族の了承を得て、センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束・虐待認識の為の基礎知識の資料を職員全員で読み合わせをし確認している。とくに言葉のかけかた言葉遣いについておかしいと思われる遣い方その都度声をかけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度については、パンフレットなどを入り口に用意し、相談できる窓口の紹介が出来る用紙している。また職員にはミーティングなどでパンフレットと配り勉強の機会を持つようにしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備し、事業や制度の内容やその違いなど学ぶ機会を設けている。成年後見制度を活用されている入居者があり、後見人の弁護士が状況を確認するために、毎月面会に来訪されている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書などでホームが出来ること、出来ないこと、また事業所のケアに関する考え方や取組みについても十分に説明している。利用者の方や家族の方の話を傾注し、十分納得していただいているから契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者本人やご家族の方が、意見や思いを遠慮なく伝えられる雰囲気づくりを心掛けている。出された意見や苦情については速やかにミーティングで話し合い対応できるようにしている。	コロナ禍で家族会の開催はないが、来訪時や電話、スマートフォンのラインなどで、入居者の近況等を詳細に報告し、信頼関係の構築に努めている。県外の家族の「会えますか」の思いにできる範囲で応え、今年のクリスマスライブに家族が披露されたハーブの演奏は好評であった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや随時の個人面談など、職員の意見や要望を聴くようにしている。また日頃からコミュニケーションを図るように心掛けており問いかけや聞き出しに気配りをしている。	ミーティングだけでなく、日頃から職員が意見を出しやすい環境で、各係の担当者が使用する物品や洗濯機等が購入されている。業務の見直しは全職員で話し合い、先ずやってみよう改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備をしている。開設当初から社会保険労務士と契約しており、職場環境の条件の整備に努めている。また働き方改革ののっとり、職務に影響のない限り自由に有給休暇をとれる環境を整えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	正社員もパート職員も分け隔てなくチームの一員として働いてもらっている。研修ミーティングも同じように参加してもらい、職員の質の向上に向けた育成が出来るよう計画している。また、資格取得に向けた研修には補助を行うなど、積極的な後押しをいっている。	開設時からの職員もあり、20代から70代の男女の職員が、夫々の状況に応じて勤務している。休憩場所や時間が確保され、希望休も叶い、資格取得支援体制を整えている。職員自ら勉強会に取り組むなど、職員は夫々の担当を担いながら、家族の様に入居者に寄り添う先輩の姿を理想に掲げ、心地よいチームケアが展開している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者・管理者は社会福祉協議会の研修参加で啓発活動に取り組んでいる。 また、職員も研修会参加で人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員が担当する勉強会に人権教育を位置付けている。理念を実践する中で最も大切なこととして、人権の啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は年間に行われる外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じて、なるべく多くの職員が受講できる計画を立てている。またそれらの研修報告は、レポートにまとめてもらい、全職員が閲覧できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で交流できていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するように努め、ご本人の求めていることや不安を理解しようと工夫している。傾聴の姿勢で話しやすい雰囲気づくりをこころ掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご本人のサービス状況や、ご家族のご苦労などの経緯についてゆっくりと聴き、ご家族の方が何を希望されているか？また不安に対して出来ることはすぐに実行、対策を考えるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況などを確認し、何から取り組むのかを相談を繰り返す中で見極めていき、支援方法や改善点などを提案していき、必要なサービスへとつなげていく中で信頼関係を深めていくようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方は人生の先輩である。という考え方を職員が認識共有するための勉強を行っている。洗濯物を一緒にたたんで頂いたり、台所の片付けを手伝って頂いたり、食材の下準備(豆の鞘取りなど)をいていただいたり助けて頂いている。おやつ作りを一緒にしたりしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が気を使われることのないように気配りしながら、面会に来られた時などに会話を心掛け、相談や要望の言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。また本人様を共に支えていくことを大切に、本人様とご家族の絆を第一に考え、程よい関係が保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の知人友人、またご家族親類の方などにいつでも会いに来て頂けるような明るい開いたホームを目指している。この一年は密接を避けある程度の距離を保ち会話をしていた	場所や時間などを制限した面会をお願いし、携帯電話やホームの電話使用、馴染みの訪問美容の利用を支援したり、担当職員が馴染みの化粧品購入を支援するなど、これまでの関係や習慣を重視した支援が継続している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員が共有して、毎日のお茶や食事、レクレーションの時間は、職員も一緒に会話を持つようにしたりして、利用者同士の関係が上手くいくように配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者様、ご家族様にも相談などの支援を心掛けている。また、入院退居となった利用者様のお見舞いにも3か月～半年に1回ぐらいの割合で次の施設がきまるまでは会いに行っている。ご逝去の連絡が入ると必ずお通夜かお葬式にお参りしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話をじっくりと聞きながら心身の状況を把握しようと努めている。コロナ禍で外出に制限があるので、その理由を理解して頂けるように説明している。	歌が好きな入居者が多く、日頃職員もギターやキーボード演奏を楽しみ、調査日も歌声が流れていた。音楽を聴きながら洗濯物畳をされるなど入居者が寛ぐ場面や機会を通じて、入居者の表情や言動に留意しながら、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などをじっくり聞き、本人の全体像を把握するよう努めている。その際には本人の過去や大切にしていることに「触れる」という自覚を持ち、本人のケアに活かすという目的を持って聞いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から一人ひとりの一日の過ごし方、生活リズムを理解するとともに、出来ないことより出来ることに注目するようにし、その全体像の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に日頃の関わりの中で思いやりや意見を聞き、プランの見直しを行っている。モニタリングは担当職員を中心に評価を行っているが、変化が大きい方や課題クリアが難しい方は、職員全員で検討を行って、現状に合った介護計画の作成につなげ、本人と家族の同意を得るようにしている。	担当職員が半年間の記録ができるモニタリング表に結果や気付きを記載し、他の職員が追記した気づきや意見を話し合い、より現状に即したケアに努めている。得意とした細かい作業ができなくなってきた入居者のまだできることに感動し、共に喜びながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体状況および日々の暮らしや本人の言葉などを記録している。いつでもすべての職員が確認できるように情報を共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて本人の意見を聴きながらまた家族と相談しながら、ほかの事業所の意見なども参考にしながら支出来る限り希望に沿った支援を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政・地域の民生委員の方との交流により、地域資源の把握に努め、本人に必要なサービスを利用できるようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には事業所の協力医のほか、かかりつけ医や希望する医療機関があれば、家族と利用者で確認をおこない、適切な医療を受けられるよう支援している。また訪問診療に来てもらうケースもあり複数の医療機関と協力関係を結んでいる。	定期的な協力医療機関からの訪問診療や訪問看護師による健康チェックを受けている。他科受診は家族の付き添いをお願いしているが、都合により職員が同行することもあり、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2度看護師による訪問で利用者の健康管理を行い、状態の変化に応じた支援が出来るようにしている。また看護師の訪問がない日も、体調に変化があればすぐに報告し、迅速な対応をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に身体状況、服薬状況など必要な情報を提供している。病院の地域連携室とも連絡を取り状況確認している。退院時には医療機関より看護サマリーを提供してもらい、医療経過を把握し、退院後のより良い支援に繋げている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向をふまえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、意志を確認しながら取り組んでいる。また意向の変化には何度でも対応可能な事を伝えるようにしている。	昨年6月、開所以来入居されていた方を居室に寝泊まりした家族とともに看取っている。入居者も夫々に、手を握り足をさすって「ありがとうね」と謝辞を述べている。日中で安らかな最期だったと、全職員で振り返っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署が行う救命講習に順に参加し、応急手当や対応についての訓練を受けている。また急変や事故発生時に備え、ホーム内にもマニュアルを置いて、いつでも対応できるようにしている。また、新型コロナウイルスに関する対応ファイルも用意している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年2回行うようにしている。地域の協力体制については隣接する住宅にお願いしたり、運営推進会議を通じて組合などにもお願いしている。	消防署と協力して年2回避難訓練を実施し、非常口の物の撤去と消火器位置の確認、初期消火についてアドバイスを受けている。食料や水、感染対策グッズ等を備蓄し、台帳や持ち出し書類も整備している。	新型コロナウイルスクラスター発生時の貴重な経験や地域との協力体制を構築し、感染や自然災害発生時の事業継続計画の策定を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の「尊厳」を大切にしている。職員の勉強会では利用者の方を人生の先輩として敬い、かける言葉の使い方、態度について細かく話し合っている。特に排泄時には羞恥心や誇りを傷つけることのないよう支援している。	「○○さん」と入居者を呼称している。日頃の言葉遣いをアンケートで振り返り、改善に取り組んでいる。管理者は入居者を人生の先輩として大きな存在であると、入居者の「尊厳」を重んじた対応に務めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が自分の思いを表しやすいような環境づくりを心掛け、スタッフは常に傾聴の姿勢をとっている。また言葉だけでなく、しぐさや表情などにも気を配っている。声掛けについても自己決定とつながられるよう配慮し支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調、気分にも配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、出来る限り個性のある支援を心掛けている。また全体で行うレクなどは一人の好みに偏らないよう様々な物を取り入れている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	部屋の担当を決め、衣類の整理整頓を行い、着たい服がいつも清潔な状態でなにか何処にあるのか見やすい状態しており、朝の更衣時には職員と共に選んで頂いている。おおよそ6週間に1回美容師に来てもらいカットをし、おしゃれを楽しんでいただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ボードにメニューを書き献立の説明をして食事に興味が湧くよう工夫している。食事時にはテレビを切り優しい音楽を流し、必要な方には必要なだけの食介を行っている。また体調・気分の調子を見ながらお盆拭きなどのお手伝いもお願いしている。	個々の入居者の嗜好や摂取量などに配慮し、食事を楽しめるよう支援している。調査日は、手作りのセリとシラスの炊き込みご飯などを夫々のペースで完食される方が多く、刻み粥食介助の方からも「美味しい」の声があった。食後手慣れた様子で食器洗いなどをされる入居者もあり、おやつ作りも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と水分摂取量・食事摂取量を記録し状態を把握している。嚥下状態にはとくに気をつけ、状態に応じて軟らか食、キザミ食などに変える工夫をしている。また食欲が無い時には甘酒やゼリーなどで様子を見ることもある。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は声掛け見守りをし、出来ない方に関しては毎食後のケアを支援し、口腔内の衛生や嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへと声掛け誘導を行っている。介助方法については個別の支援方法を職員全員が把握している。排泄の失敗を極力減らし、トイレでの排泄ができるように支援している。排泄の仕方がわからなくなった方のケアを職員全員で話し合い、本人を傷つけることなく排泄できるような誘導を工夫している。	前止めおむつのを使用している入居者もあるが、車椅子での移動を介助したり、時間毎や動きを察知した誘導など、夫々の状況に応じた排泄を支援している。トイレへ誘導の際は尊厳を傷つけない声掛けを実践している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人個人の水分チェックを行なっている。また適度な運動などや繊維質の多い食材の利用などで便秘の予防に努めている。ほかに医師、看護師との連携で排便の調節を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調や気分などにも気をつけながら、基本的に毎日入浴して頂いている。一度目の声掛けで拒否があっても、時間をおいて違う声かけをしてみるなどの工夫をし、毎日のお風呂を楽しんで頂いている。	清掃が行届いた浴室で、毎日入浴を支援している。着替えが面倒で入浴を億劫がる入居者には声掛けを工夫したり、翌日に入浴できるように支援している。同性介助の希望はないが、男性職員の介助には「申し訳ない」との声がある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。また一人ひとりの体調や表情、希望などを考慮してゆっくりと休息がとれるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルしており、薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときには、いつもより詳細な記録をとるようにしたり、送り状をして薬を管理し、誤薬や飲み残しのないよう確認の徹底を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。貼り絵など出来る方には貼る作業を一緒に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は日常的に散歩に出かけるようにしている。コロナ禍で外出もままならい中であるが、近くの河川敷に彼岸花を見に行ったりしている。	コロナ禍の中、ひまわりやヒガンバナ、先日は梅の花見に出かけている。普段しゃべらない入居者の「きれいねえ」とその一瞬を楽しまれる声に、出かけて良かったと職員は喜んでいる。ジョイナスニュースには笑顔満載のスナップが掲載され、明日はお雛様見学を予定している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を家族から預かり、事務所が管理している。洋服を職員と買い物に出かけ好みの洋服を選んで購入したりしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、電話をかけて頂いている。ご家族の電話も取り次ぎ、本人、家族が安心されるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は、天井を高く十分な採光を取り入れている。また広い壁を利用して利用者、職員共同で季節感のある壁絵を毎月作成し、飾りつけを行っている。ホールのカウンターや窓にも季節の生花やグリーン類を置き季節を感じていただいたり、壁にも絵画を飾り、優しい音楽を流したり、また温湿度に気をつけ加湿器や空気清浄機などを設置し快適な環境づくりに取り組んでいる。	玄関に入ると、正面の高い壁に貼られた共同制作の大きな雛人形の壁画が迎えてくれる。広い掃き出し窓や天窓からの陽光で明るく広い居間は、清掃が行き届き、空気清浄器などで空調に配慮し、時折窓を開けて換気している。大きなテーブルを囲んだり、窓際でカラオケに合わせて馴染みの曲を口ずさむ等、夫々思い思いの場所でゆっくりと静かに過ごす入居者の姿があった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはゆったりとしたソファを置き、絵画や花を飾り、居心地の良い空間づくりに配慮し、一人で過したり、仲の良い入居者同士がつるげる十分なスペースがある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には広いクローゼットを備え、馴染みのものが出来るだけ持って来れるようにしている。居室室内にもタンスや写真など、思い出のある品物が持ち込まれ、居心地の良い雰囲気づくりを可能にしている。	居室の引き戸に可愛い名札が下がり、居室毎に書初めの作品や家族写真などが飾られている。どの居室も清掃が行き届き、自宅からソファやタンスなどが持ち込まれ、担当職員が衣替えを支援するなど、居心地よい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自立した生活が送れるよう、必要な場所には手すりを設置したり、安全に暮らせるよう配慮している。利用者様一人ひとりの「わかる力」を見極め、物のは何時などに配慮している。		